動詞 comprendre の直接目的語を表す代名詞の指示と照応の問題

國末 薫

0. はじめに

本研究では、フランス語の動詞 comprendre と動詞の直接目的語を表す人称代名詞、中性代名詞 le と指示代名詞 ça の関係について話し言葉コーパスを基に記述し、傾向を明らかにする。動詞と直接目的語を表す代名詞の関係は、朝倉（1981)、秋廣（2007)、山本（2006)、稲葉（2010）などが研究を行っており、個々の動詞に応じて代名詞の使用が異なることが明らかになっている。山本（2006）と稲葉（2010）の研究により、認知的な意味を持つ動詞 savoir や penser は、他の動詞と比較して指示代名詞 ça が使用される頻度が非常に低い傾向にあることが示されている。本研究では、同様に認知的な意味「理解する・分かる」の意味を持つ動詞 comprendre の分析を通じて、この傾向が認知的な意味を持つ動詞に一般化することができるのかを検証する。また、國末（2021）の調査で動詞 comprendre が様々な意味タイプの直接目的語を取ることが明らかになったが、本調査を通じて、代名詞との関係から動詞 comprendre の直接目的語を分類し、この動詞の特徴を更に細かく記述する。[1)]

1. 代名詞による指示対象のカテゴリー化の違い[2)]

フランス語には、性数を区別し、名詞句を照応する人称代名詞や節の代理となる中性代名詞、指示代名詞などの代名詞がある。これらの代名詞については、個々の研究と比較研究が多く進められており、それぞれの代名詞によって、指示対象の解釈が異なることが指摘されている。

（1） a. Je la comprends, la direction.

b. Je comprends ça, la direction

(Blanche-Benveniste 1984 : 67 を基に作例)

（1a）と（1b）では、異なる代名詞が使用されているが、指示対象はいずれも « la direction » である。Blanche-Benveniste et al. (1984 : 47-50）によると、同じ語を受け直していても、どの代名詞を選択するのかで名詞句の解釈が異なる。（1a）の « la direction » は、人称代名詞で照応されることにより、「個別化」« individualisant » して解釈が行われ、「指導部」や特定の「指導方針」を意味する。一方で、 ça が用いられた（1b）の場合、指示対象は「非個別化」« désindividualisant » して解釈され、「指導というもの」と総称的な意味になる。

人称代名詞と指示代名詞によって受け直される要素の解釈が異なることは、これまで、主語人称代名詞 il と指示代名詞 ça の比較を通じて多くの研究で指摘されている。 Burston & Burston (1981)

によると、人称代名詞と指示代名詞の違いは、指示対象のアイデンティティーの確立の仕方にある。[3] il の場合、話者は、談話の中に存在する特定の指示対象を指しながら、対話者が指示対象に対して知っていることについても認めている。一方で、指示代名詞が使用される場合、指示対象のアイデンティティーは確立されていない。

ça の指示や照応の仕方について、Maillard (1987) は、« transnomination » と « pronomination » の 2 つの機能があることを指摘している。前者は、(2a) のように、指示代名詞 ce を用いることで、「子どもというもの」と総称的に解釈する際に用いられる。後者は、(2b) のようにまだ呼び名を持っていないものを指示する際や、呼び名を持っていても、指示の形を用いて把握し、認識する際に用いられる。

(2) a. Les enfants, c'est bruyant (Maillard 1987 : 173)

b. C'est quoi, ça ? (Maillard 1987 : 172)

また、 Willems (1996) は、 ça の機能が « nominalisateur » 「名詞化辞」であると述べている。ça は、動詞の直接目的語に来る名詞句の代わりを果たすため、名詞として認識することができないものにも名詞的用法（今回の場合直接目的語）を与えることができる。

以上のことから、人称代名詞は、指示対象の語のアイデンティティーをそのまま受けなおして指示するのに対し、 ça は、言語化されていない事柄を取り込むことや、既に言語化されている事柄も新たに解釈し、談話の中に（再）導入することができる。Maillard (1987) が指摘するように、代名詞は単なる名詞の代理ではない。[4]代名詞の選択から発話者が名詞句をどのように捉えて対話者に伝えようとしているのかが明らかになる。

次いで、中性代名詞 le の特徴を見ていく。井元（1991）は、性数の変化が行われず、「役割」の機能のみを受けることから、中世代名詞 le を指示代名詞に近いものであると捉えている。同様に、Johnsen (2010) は、文法的なカテゴリーを区別しないことから、中性代名詞 le は、動詞構文が表すような過程を照応することができると指摘している。一方で、稲葉（2010 : 61）によると、「中性代名詞 le は、指示レベルでは定冠詞、談話の構成要素としては人称代名詞の機能を備えている」。稲葉の研究において中性代名詞 le は、人称代名詞のように指示対象のステータスを確立しているのに対し、ça は、ステータスを確立しないため、発話者の視点や態度が現れることが報告されている。

以上を踏まえると、中性代名詞 le は、人称代名詞と指示代名詞 ça の中間に位置付けられる。したがって、個別性の観点から代名詞を分類すると以下のようにまとめることができる。

表1 個別性の観点による代名詞の分類

個別性	高い	＞	低い
代名詞のタイプ	人称代名詞	中性代名詞 le	指示代名詞 ça

2. 研究の目的

先行研究の概観から、人称代名詞、中性代名詞 le と ça で指示・照応の仕方が異なることが確認できた。後に見るように、認知的な意味を持つ動詞 savoir や penser は、指示代名詞 ça とは共起しにくい傾向が先行研究で指摘されている。この傾向は、他の認知動詞でも見られるのだろうか。本研究では、フランス語話し言葉コーパスの用例を基に、動詞の直接目的語を表す人称代名詞、中性代名詞 le 、指示代名詞 ça の機能を動詞 comprendre との関係から観察する。具体的には、動詞 comprendre の直接目的語は、どのようなタイプの代名詞で受け直される傾向にあるのか、動詞 comprendre の直接目的語の意味タイプに応じて代名詞の使用に差異があるのかを調査する。

3. 分析方法

3.1 分析コーパス

本研究では、 ORFÉO (Outils et Ressources sur le Français Écrit et Oral) に公開されている現代フランス語のデータ（CEFC）を分析対象とした。[5] ORFÉO は、様々な研究機関が提供する書き言葉約 600 万語、話し言葉約 400 万語のデータを一括検索できるプラットフォームである。今回は、話し言葉のデータに関心があるため、後者のデータを対象とした。

CEFC で、動詞 comprendre の全ての活用形を検索し、csv ファイルの形でダウンロードした。次いで、データをエクセルで表示し、手作業で代名詞が使用されている用例を抽出した。その結果、動詞 comprendre が使用されている 2089 例のうち、およそ 8% にあたる、165 例において人称代名詞、中性代名詞 le と指示代名詞 ça が使用されていた。 これらのデータを対象に、次の節で紹介する、形態的、意味的要素でコーディングを行った。

3.2 コーディングの要素

分析では、次の表 2 に示した 2 つの分析基準からデータを観察し、その特徴をコーディングした。

表2 コーディング要素

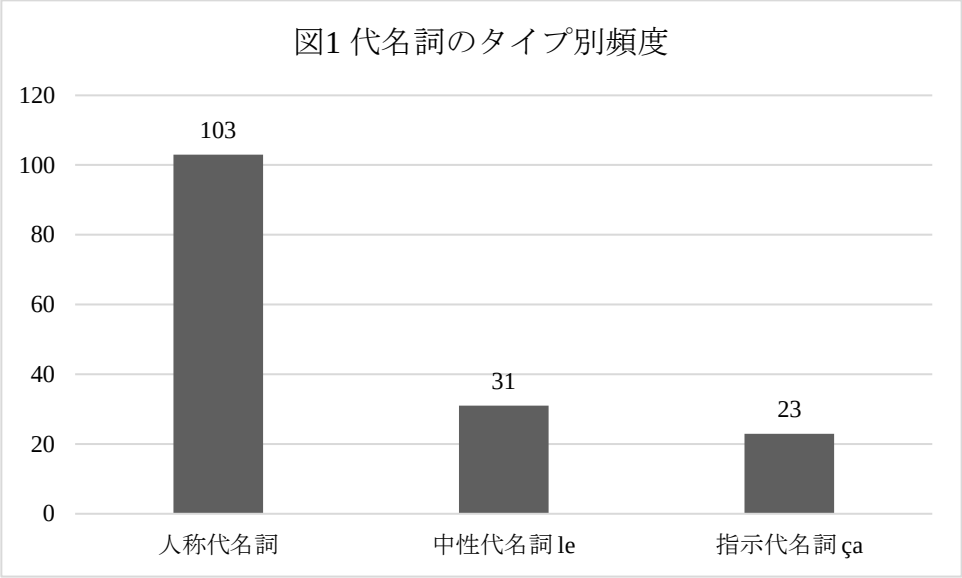
分析基準	カテゴリー	例
代名詞のタイプ	人称代名詞 (me, te, le, la, les, nous, vous)	
	中性代名詞 le	
	指示代名詞 ça	
指示対象の意味特性	人	des Italiens
	言語	le flamand
	発話内容やテキストの内容	la conversation
	言葉やその内容以外の様々な事象	la dificulté
	状況・事実	il est satisfait

動詞 comprendre の取る構文別に意味的、統語的特徴を話し言葉コーパスを基に記述した國末 (2021) では、動詞 comprendre の直接目的語の位置に来る名詞句は、大きく分けて「言葉に関係するもの」「しくみや具体的な対象物」「人及び人による感情に関わるもの」のタイプに分類することが

できた。今回は、この研究を踏まえて、分類方法を再考し、表 2 の 5 つのカテゴリーに意味特性を分類した。

4. 代名詞のタイプ別頻度

まず、「代名詞のタイプ」のコーディングの結果を見ていく。動詞 comprendre の直接目的語を表す人称代名詞、中性代名詞 le 及び指示代名詞 ça の用例数を調査したところ、以下のような結果が得られた。なお、人称代名詞 le と中性代名詞 le の判別が難しかった 8 例は、除外している。



この結果から、動詞 comprendre の特徴を 2 つ記述することができる。

第 1 に、代名詞のタイプとしては、名詞句の形で性数が区別され、個別性の高い要素として受け直す人称代名詞が最も多く用いられる傾向にあるという点である。「代名詞のタイプ」のコーディングから、動詞 comprendre の直接目的語を表す代名詞のうち、約 62%にあたる 103 例が人称代名詞で表されていた。このうち、指示代名詞 ça と競合する人称代名詞 le, la, les が使用されている用例は、82 例だった。先行研究で見たように、人称代名詞で受け直される場合、指示対象は、アイデンティティーが確立したものとして捉えられている。インフォーマルな話し言葉コーパス TUFS を対象とした國末（2021）の調査で、動詞 comprendre の直接目的語の名詞句は、高い頻度で定冠詞や所有形容詞を伴って現れていたことからも、アイデンティティーが確立した要素を直接目的語として取る傾向にある動詞であることが分かる。

第 2 に、指示代名詞 ça が用いられるという点である。本コーパスでは、23 例（代名詞の使用の約 14%）観察された。中性代名詞 le と ça を扱った稲葉（2010）では、認知動詞 savoir が検討されているが、この動詞は、談話照応においてほとんど ça を直接目的語として取らないことが指摘されている。[6]同じ認知動詞だが、 comprendre の場合、指示代名詞 ça も直接目的語の代名詞として使用されている。

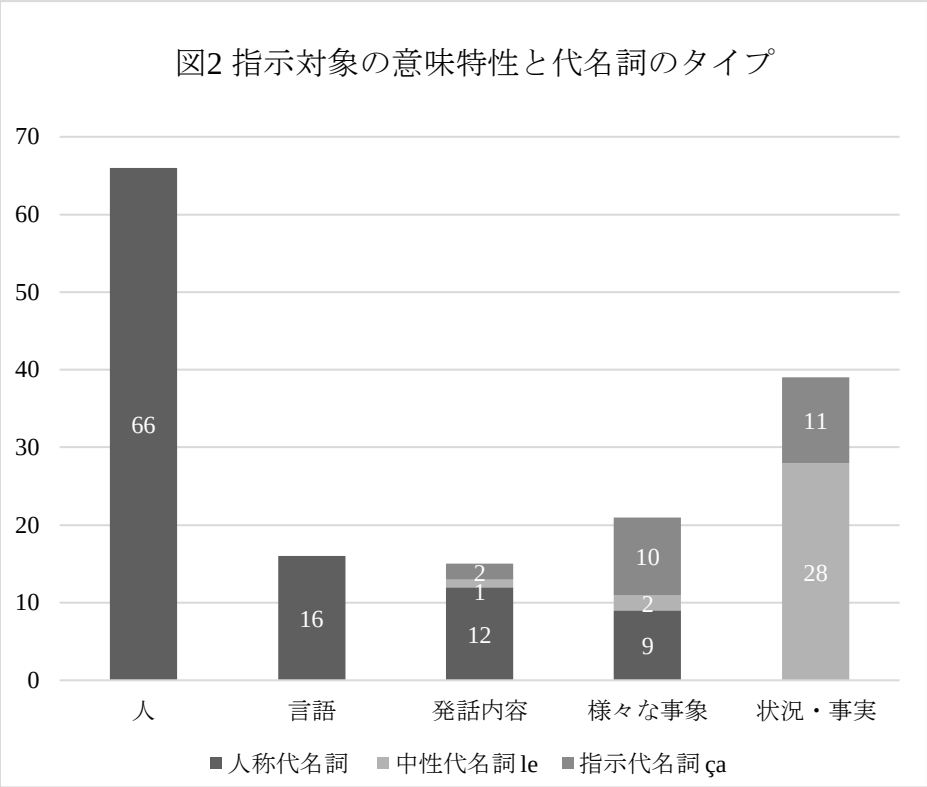
以上から、動詞 comprendre は、受け直す語のアイデンティティーを引き継ぎ、それに対して「理

解」を示すことが多いことがわかる。また、指示代名詞 ça とも共起することが明らかになった。Boone (1998) において、認知動詞は、中性代名詞 le と ça と共起することが指摘されているが、認知動詞の中でも差異があることは指摘されていない。個々の動詞によって代名詞の共起の仕方も異なることが判明した。

5. 指示対象の意味特性と代名詞の関係

5.1 コーディングの結果

次いで、「代名詞のタイプ」と「指示対象の意味特性」のコーディングの結果を見ていく。代名詞が指示、照応する対象の意味特性を代名詞のタイプ別に調査したところ、以下のような結果が得られた。



コーパスの用例の調査から、人称代名詞の指示対象の意味特性は全て、「人」及び「言語」だった。また、「発話内容」、「言語やその内容以外の様々な事象」は、3 つのタイプの代名詞で照応されることができた。そして、中性代名詞 le と指示代名詞 ça で受け直されるタイプとして、「状況・事実」があった。この分析結果を例文と共に示しつつ、より詳しく以下で見ていきたい。

5.2 人称代名詞によってのみ表されるタイプ

まず、コーパスの中で非常に多く見られた形として、人称代名詞 le, la, les が「人」を照応する場合が挙げられる。動詞 comprendre が「人」を表す名詞句を直接目的語として取る場合、動詞の意味は 2 つある。まず、(3) のように、「その人の言っている内容を理解する」という意味である。

(3) L2 : il y a d~ des Italiens qui parlent provençal

[…]

L2 : on peut très bien les comprendre et ils nous comprennent très bien

(TCOF, Prov_pin_89)

上の例では、« des Italiens » が人称代名詞 les によって受け直されているが、これは、« ce qu'ils disent » と言い換えることができる。

(4) au bout d'un moment euh c'est bon d'un côté je les comprends les flics ils la police ils s'en foutent (CFPP2000, Youcef_Zerari_H_29_Abdel_Hachim_H_25_SO)

2 つ目の意味は、「その人の状況、気持ちに理解を示す」である。(4) の人称代名詞 les は、(3) と同様に人を照応しているが、この場合、発話者は、« les flics » の言っていることを理解しているのではない。彼らの立場や気持ちに対して理解を示している。この場合、言い換えるならば、« comprendre ce que les flics sentent » あるいは、後の発話を受けて « comprendre qu'ils s'en foutent » となる。[7)]

また、「言語」も全て人称代名詞で受け直されていた。以下の例では、フラマン語が人称代名詞で受け直されていた。

(5) accPH1 : je comprenais quand euh à la mer quand tu parles doucement en flamand […]

accCT0 : c'est ça vous le compreniez

(Valibel, accPH1r)

書き言葉コーパス Frantext を基に作成された辞書 *Trésor de la Langue Française Informatisé* の分類では、後に見る「発話・テキストの内容」と「言語」を同じカテゴリーに分類している。[8)]しかし、発話内容の場合、« comprendre ce que SN dit » に言い換えが可能であるのに対して、「言語」の場合、このテストは有効ではない。[9)]したがって、本稿では後に紹介する「発話内容」とは異なる意味カテゴリーとして位置付けた。

以上、本コーパスでの調査で、人称代名詞によってのみ受け直されていたのは、「人」と「言語」のカテゴリーだった。この 2 つの直接目的語の意味タイプは、談話の中でアイデンティティーが確立していて、個別性が高い名詞句であることがわかる。また、「人」は今回の代名詞の調査で動詞 comprendre の直接目的語として最も多く現れた。ネイティブからは、『« je le comprends » と聞くと、まず、「人を理解する」が想起される』という意見を得ることができたが、このネイティブの感覚を裏付けるデータの一つとして見ることができるだろう。[10)]

5.3 3 つの代名詞によって表されるタイプ

次いで、人称代名詞、中性代名詞 le 、指示代名詞 ça で受け直されていた「発話・テキストの内容」と「言葉、その内容以外の様々な事象」を見ていく。

(6) je suis vraiment vraiment très heureux de pouvoir euh me me m'identifier parfois certaines personnes à m' introduire dans la conversation à à à pouvoir la comprendre aussi c'est important

(Valibel, ilpDD1r)

(7) L2 : alors il y a ceux qui arrivaient du Pays de Caux et alors qui avaient un accent et des des expressions extraordinaires style euh qu'est-ce qu'elle a à crier elle a qu'à les tomber choir chu cri

L1 : ah oui et qui qui comprend encore ça oui

(CRFP, PRI-ROU-2)

(6) では、« la conversation » が人称代名詞によって受け直されている。(7) は、ノルマンディー地方の方言の言葉 « qu'est-ce qu'elle a à crier elle a qu'à les tomber choir chu cri » が ça で受け直されている。 « choir chu cri » のように、名詞句の形で捉え直すことが難しいものは、人称代名詞を用いることはできない。ça は、Willems (1998) が指摘したように、名詞句の代わりとなり、« choir chu cri » という表現を動詞構文に取り込んでいる。また、 ça を用いることで、指示対象は、「 choir chu cri のような類のもの」と非個別化して解釈される。

「言葉やその内容以外の様々な事象」の場合、その物が持っているしくみや価値が理解の対象となる。

(8) c' est comment sommes-nous capables euh de prendre euh la difficulté d' essayer de la comprendre

(CLAPI, reunion_organisation_dh)

(9) Papa je comprends pas ça tu m'expliques

(TUFS, 11DCFBC110913)

(9) では、現場指示的に ça が用いられている。名詞句の形で表されていないものを言語化し、動詞の構文に取り込む点で、(7) の « choir chu cri » を表す ça と共通している。

「人」や「言語」とは異なり、「発話・テキストの内容」と「言葉やその内容以外の様々な事象」の直接目的語の意味タイプは、(7) や (9) のように指示代名詞で照応され、まだ呼び名を持っていない状態で談話の中に導入されることがある。動詞 comprendre の場合、理解できないものを表す際に用いることができる。

5.4 中性代名詞 le と指示代名詞 ça で表されるタイプ

最後に、中性代名詞 le と指示代名詞 ça で受け直されていた「状況・事実」を見ていく。これらは、 que 節及び間接疑問文に言い換えることが可能である。動詞 comprendre の後に que 節が後続する場合、従属節の法によって動詞の意味が異なることが Damourette et Pichon (1911-1936) 、Soutet (2000) 、 Baunaz (2017) によって指摘されている。

(10) Pierre **comprend** que Paul **est parti** (comprend : « prend intellectuellement conscience »)

(11) Pierre **comprend** que Paul **soit parti** (comprend : « approuve »)

(太字原著, Soutet 2000: 62)

分析では、直説法を伴う（10）の「認識的な理解」と接続法を伴う（11）の「共感的な理解」の両方で中性代名詞 le と ça の例が見られた。

稲葉（2010 : 61-62）は、指示代名詞 ça の使用について、「指示対象に対する共発話者（および他者）との見解（視点）のズレを認めた場合」と説明している。また、Burston & Burston (1981 : 235) によると、 対話者の認識と文脈的に決定される事項との間に « décalage » があると発話者が認識する際に指示代名詞は用いられる。しかしながら、実際にコーパスの用例を観察すると、「発話者がズレを認めた場合」と言うよりも、発話者が、指示対象に異なる解釈を与えていることを対話者に示すために ça を用いる例が見られた。

(12) au bout d'un an et demi il y en a beaucoup qui sont partis qui ont fait autre chose qui se sont lassés euh et je peux le comprendre

(TUFS, fr03-1_2005_07_04)

(13) L1 : et puis voilà non ça m'a pas euh effectivement donné envie

L2 : plus oui non mais c'est je comprends ça vraiment très bien hein euh oui c'est il y a mm c'est un autre monde qui est suffisant

(CFPP2000, Isabelle_Legrand_F_32_Anne-Lies_Simo-Groen_F_30_RO)

（12）の中性代名詞 le が使用される場合、受け直される要素に対する再解釈は行われていないが、(13) の ça の場合、受け直される要素は、非個別化して再解釈され、談話に再導入されている。ça を用いることによって、« je comprends que tu n'aies pas eu envie » を一般化して、« je comprends qu'on ait pas eu envie » と捉え直すことができている。

動詞 comprendre の直接目的語の意味タイプの 1 つである「状況・事実」を受け直す場合、中性代名詞 le と指示代名詞 ça を使い分けることで、「理解する」対象について、対話者の認識や文脈的に解釈できるままで理解しているのか、あるいは、非個別化し、アイデンティティーを未確定のものとして捉え直して理解しているのかを対話者に示すことができる。ça の持つ非個別化の機能により、(13) のように、 相手の状況を一般化することで、動詞 comprendre の持つ「共感的な理解」の意味を効果的に使用することも可能だ。

6. おわりに

本研究の調査から、認知動詞の中でも、指示代名詞 ça との共起の仕方には、差異が認められることが明らかになった。また、1 つの動詞の中でも、直接目的語の意味タイプに応じて代名詞の共起が異なることが明らかになった。本研究の対象となった動詞 comprendre については、「人」と「言語」は、必ず人称代名詞で受け直され、個別性の高い直接目的語であるのに対し、「発話内容」、「言葉、その内容以外の様々な事象」、「状況・事実」は、指示代名詞 ça によって受け直されることができ、発話状況、話者の意図に応じて効果的に使用されている。

ネイティブからは、中性代名詞 le を用いると「人」を理解しているような印象を与えるため、「状

況・事実」の場合、その誤解がない ça を選択することがあるという興味深い意見を得ることができた。中性代名詞 le と ça で受け直される場合でどのような違いがあるかについては、統語レベルの分析のみならず、談話レベルの分析が求められる。また、より多くのネイティブにアンケート調査を行い、どのような要因でこの 2 つの代名詞が選択されるのかを調査する必要がある。

註

[1] なお、今回の分析対象は、 « ça je comprends » のように ça が前置されたタイプは対象としない。また、代名詞 en と y は別の機会に論じたい。

[2] 本章は、筆者の修士論文である國末（2022）の一部を加筆・修正したものである。

[3] « There is nonetheless an essential difference between the two types of pronominal and it resides in the manner in which each establishes the identity of its referent. » (Burston & Burston 1981: 234)

[4] « C'est une vue superficielle et étroitement pédagogique que de présenter les pronoms comme de simples remplaçants des noms, permettant d'éviter la répétition de ceux-ci » (Maillard 1987: 171)

[5] Corpus d'Étude pour le Français contemporain は、 https://repository.ortolang.fr/api/content/cefc-orfeo/11/documentation/site-orfeo/index.html からアクセス、検索が可能。このプラットフォームの詳細については、 Debaisieux et al.（2020）を参照のこと。

[6] 稲葉（2010）によると、調査したコーパスでは、0 例、Google livres の検索では、2 例であった。

[7] ただし、どちらの意味にも捉えられる場合もある。以下の例では、 « je comprends ce que tu dis » とも、 « je comprends que tu préfères dormir » とも言い換えられる。今回の調査では、「人」で分類したため、分析する上で問題にはならなかった。

LR : si j'avais pas cours hein non mais oh je préfère dormir hein
KS : oui ben je te comprends bien ce matin je j'ai un peu hésité à me lever d'ailleurs
(TUFS, 16KSLR110914)

[8] II-A-1 « [Par réflexe acquis, par actualisation d'une connaissance mémorisée antérieurement] Saisir intellectuellement le rapport de signification qui existe entre tel signe et la chose signifiée, notamment au niveau du discours » (TLFi) に分類されている。

[9] 言語の場合、 « comprendre ce qui est dit en flamand » に言い換えができる。

[10] この点については、國末（2022）で他の動詞で見られる傾向も踏まえてより多角的に考察している。

参考文献

Baunaz, L. (2017). Embedding verbs and subjunctive mood: The emotive factor, In S. Perpiñán, D. Heap, I. Moreno-Villamar and A. Soto-Corominas (eds.) *Romance Languages and Linguistic Theory 11: Selected papers from the 44th Linguistic Symposium on Romance Languages (LSRL), London, Ontario*, Amsterdam: John Benjamins, 9-31.

Blanche-Benveniste, C., Deulofeu, J., Stéfanini, J., Van Den Eynde, K. (1984). *Pronom et syntaxe. L'approche pronominale et son application au français*, Paris : SELAF.

Boone, A. (1998). La pronominalisation des complétives objet direct, In M. Bilger, K. van den Eynde and F. Gadet (eds.) *Analyse linguistique et approches de l'oral : recueil d'études offert en hommage à Claire Blanche-Benveniste*. Leuven / Paris : Peeters, 103-114.

Branca-Rosoff, S., Fleury, S., Lefeuvre, F., Pires, M. (2012). *Discours sur la ville. Présentation du Corpus de Français Parlé Parisien des années 2000 (CFPP2000)* <http://cfpp2000.univ-paris3.fr/CFPP2000.pdf>

Burston, J.L. & Burston, M. M. (1981). The use of demonstrative and personal pronouns as anaphoric subjects of the verb être, *Linguisticae Inverstigationes*, 5 (2), 231-257. <https://doi.org/10.1075/li.5.2.02mon>

Damourette, J. et Pichon, E. (1911-1936). *Essai de grammaire de la langue française : des mots à la pensée*. Tome 5, Paris : d'Artrey.

Debaisieux, J-M. & Benzitoun, C. (eds.) (2020) *Langages nº 219 : Orféo : un corpus et une plateforme pour l'étude du français contemporain*, Paris, Dunod / Armand Colin.
Johnsen, L-A. (2010) Les pronoms « neutres » et leur référence à des procès en français parlé, *Linx*, 62-63, 153-178.
Maillard, M. (1987). « Un zizi, ça sert à faire pipi debout! ». Les références génériques de ça en grammaire de phrase, In G. Kleiber (ed.) *Rencontre(s) avec la généricité*, Paris : Klincksieck, 157-206.
Soutet, O. (2000). *Le subjonctif en Français*, Paris : Ophrys.
Tasmowski-De Ryck, L. (1992) Le verbe transitif sans complément, Travaux de Linguistique et de philologie XXX, 157-170.
Willems, D. (1998) La mer, c'est beau. Le sujet dans certaines structures non canoniques, In M. Forsgren, K. Jonasson and H. Kronning (eds.) *Prédication, assertion, information : actes du colloque d'Uppsala en linguistique française, 6-9 juin 1996* (Acta Universitatis Upsaliensis, Studia Romanica Upsaliensia, 56), Sweden: Uppsala university, 595-603.
秋廣尚恵（2007）「フランス語話し言葉における動詞 aimer」『ふらんぼー』32-33, 東京外国語大学フランス語研究室, 66-84.
朝倉季雄（1981）『フランス文法ノートー基本の用法ー』白水社.
稲葉梨恵（2010）「動詞の直接目的補語におかれる照応詞 ça と le の比較的考察」『フランス語学研究』44, 49-63.
井元秀剛（1991）「人称代名詞 IL の指示対象ー主に CE との対比において」『仏語仏文学研究』7, 東京大学仏語仏文学研究会, 117-141.
小田涼（1999）「代名詞 CE と IL の指示対象の捉え方について」『フランス語学研究』33, 52-57.
國末薫（2021）「動詞 comprendre の意味と構文の記述的研究ーフランス語話し言葉コーパスの分析からー」『ふらんぼー』46, 東京外国語大学フランス語研究室, 145-164.
國末薫（2022）「会話及びインタビューにおける動詞 comprendre の意味と用法」修士論文, 東京外国語大学 総合国際学研究科.
東郷雄二 （1988）「≪Mon frère, il est linguiste et le coupable, c'est lui.≫ : 代名詞 IL と CE の用法について」『フランス語フランス文学研究』53, 102-111.
東郷雄二（1993）「指示と照応ー照応代名詞 IL と CE の用法を中心にー」『フランス語とはどういう言語か』 駿河台出版社, 75-94.
山本香里（2006）「節を受ける le, ça Ø ―dire, penser, savoir の場合―」『年報・フランス研究』40, 159-171.

辞書・コーパス

CORPUS CFPP 2000 < http://cfpp2000.univ-paris3.fr/> （最終アクセス 2021/09/23）
ORFÉO (Outils et Ressources sur le Français Écrit et Oral) <https://repository.ortolang.fr/api/content/cefc-orfeo/10/documentation/site-orfeo/home/index.html> （最終アクセス 2021/09/23）
TLFi : *Trésor de la langue Française informatisé*, http://www.atilf.fr/tlfi, ATILF - CNRS & Université de Lorraine. （最終アクセス 2021/6/31）